

白方の風

【学校教育目標】自ら学び考え、心豊かで
健やかに生きる児童の育成

令和7年度
No.37
東海村立白方
小学校
2026.1.23
児童数452人

中学校や高校で生徒間の暴力行為・いじめ行為の動画がネット上に投稿され、拡散するといった極めて憂慮される事態が起きております。

学校では、暴力行為やいじめは決して許されないものであることであること、まして、そうした行為を撮影してネット上に投稿する行為は絶対にやってはいけない行為であることをお伝えいたしました。加えて、「暴力行為やいじめを見たことがあるか。」といったアンケートを行い、そうした行為の撲滅に取り組んで参ります。

暴力行為・いじめ、さらにはその投稿・拡散は、人道的に許されない行為であると共に、その情報はさらに拡散され、誹謗中傷が広がり、新たな人権侵害問題も生じる可能性もあります。ご家庭におかれましても、正しい情報機器の使用の仕方について確認していただき、暴力行為やいじめなどの画像の投稿や閲覧など、不適切な使用な未然防止とこうした行為は許されない行為であるといったことをご助言等いただければと存じます。

阪神淡路大震災・・・

～ 大きな地震がありました。 ～

今から31年前の1995年1月17日午前5時46分に、兵庫県を中心に大きな被害をもたらした阪神淡路大震災（はんしんあわじだいしんさい）がありました。最大震度は7で激しい揺れが起り、建物が倒れたり、高速道路がなぎ倒されたりしました。亡くなられた方は約6,400人、負傷された方は約6万4,000人になりました。建物が壊れた後に、電力が復旧したことが原因で各地で火災が起りました。加えて固定されていない家具の下敷きによって圧死した方々も多くおられました。

この大震災を教訓としてその後の災害対策に役立てているものが多くあります。

例えば、大地震の後に家具や建物の倒壊による圧死が多かったことから、震災後には、耐震改修促進法と呼ばれる法律ができ、1981年以前に建てられた病院や学校などに耐震診断が義務付けられました。さらに、各家屋では家具の転倒防止金具の設置などが進むと共に、寝室や部屋の出入り口に倒れやすい家具などを置かないなどの対策が進められてきました。

さらに、この大震災では、被災地に全国から多くのボランティアの方が駆けつけ、避難所の運営や炊き出しを行いました。1年間で、延べ約137万人が活動したとのことです。こうした多くのボランティアが被災地を手助けする動

きが始まったことから、阪神淡路大震災の年を「ボランティア元年」と呼ぶ場合もあります。その後、多くの災害時に各地区でボランティアの受け入れが行われるようになってきています。その他にも、地震で電気のブレーカーが落ちる「震感ブレーカー」の開発や設置、避難所でのプライベート空間確保のための仕切りの設置、寒さ対策の段ボールベッドの活用など、この震災及び東日本大震災などの教訓が活かされています。

学校では、適宜様々な災害を想定した避難訓練を実施して自分の命を自分で守る力を高めて参ります。避難する際の「お（さない）か（けない）し（やべらない）も（どらない）」や津波警報が出た際に逃げる際の「津波てんでんこ」（てんでんばらばらに、自分の命を守るために高台に逃げる）といった合い言葉も繰り返しお話ししております。

さらに、災害に遭われ親族を亡くされた方、家財を失われた方など被災され方々の思いを想像して、自分にできることがあればできる限り力を尽くそうとする気持ちと態度を育てて参ります。

書き初め・・・

～ 新年の思いを込めて書きました。 ～

13日（月）～23日（金）の期間に、全学年で書き初めを行いました。

年頭に書き初めをすることにより、心新たに新年の抱負をもつことができるようにするため、この時期に毎年実施しております。さらに、書いたものを書き初めとして展示することで、書写に対しての意欲を高めることをねらいとして実施しております。題材の文字は次の通りです。

- 1年生「お日さま」
- 2年生「はつ日の出」
- 3年生「正月」
- 4年生「出発」
- 5年生「希望」
- 6年生「感謝」

ひと文字、ひと文字気持ちを込めて丁寧に書いた様子が伝わってくる作品ができあがりました。

書き初めの起源は平安時代の宮中行事である「吉書始」だといった説があります。学問や書の上達を願いながら、初めて筆をとる行事といった意味のものであったようです。

